

一緒に話してみませんか？あなたと薬のこと

—動画（Part1&2）シナリオ—

平成 24 年 12 月

くすりの適正使用協議会 くすりのしおりコンコーダンス委員会

## 目次

はじめに	3
------	---

### **Part1** 初めて飲む薬を処方された時

・ 来局した理由を説明する	4
・ 生活習慣を見直す	6
・ 説明された内容を確認する	7

### **Part2** 治療を続けるために ～一年後～

・ 不安や悩みは抱え込まないで相談する	10
・ 積極的に治療に参加する	12
・ 再度、自分の生活習慣を見直す	13

<b>【参考資料】</b> くすりのしおり見本	16
-------------------------	----

## はじめに

本動画は『一緒に話してみませんか？あなたと薬のこと』の Part1「初めて飲む薬を処方された時（11：51）」と Part2「治療を続けるために～一年後～（10：31）」の2部構成となっております。

患者さんと薬剤師（医療者）がパートナーシップを構築し、よりよいコミュニケーションを円滑に行うことで最善の治療や、患者さん自身が薬を正しく理解し用いることを通して健康保持とQOLの向上に寄与できるよう、患者さんと薬剤師それぞれの視点からコミュニケーションのポイントを紹介しております。

### 動画をご覧になるときの留意点

- ・この動画は、患者と薬剤師とのコミュニケーションを円滑にする目的で作成されています。
- ・状況に応じて必要な部分をお役立て下さい。（一度に全て、また毎回行う必要はありません）

## [Part 1] 初めて飲む薬を処方された時

ナレーション

薬局で薬をもらう時、薬剤師とどのような会話をしていますか？みなさんが、積極的に治療に取り組めるよう、そのポイントをご紹介します。

処方された薬を薬局でもらう時、“薬情”と言われる薬剤情報提供文書という薬の簡単な説明が書かれた用紙を受け取っていると思います。今回、この薬情と共に、薬の作用と効果、用法・用量、生活上の注意、副作用などが分かりやすく書かれた『くすりのしおり\*』を活用し、処方されたご自分の薬についてより理解してもらい、治療に役立つようにします。

**\* くすりのしおり見本 (P16 参照)**

## 来局した理由を説明する

ナレーション

山田さんは60歳のサラリーマンです。「少し血圧が高めだ。」とかかりつけの医師から言われていましたが、特に生活に困ることはありませんでした。ところが、食事中に箸を落としたことがあり、家族の勧めで受診したところ、脳梗塞と診断されました。戸惑いながらも処方箋を持って保険薬局で薬を受け取る場所です。

今日担当してくれる薬剤師は、佐藤さんです。

佐藤 「山田さん、このお薬は初めて飲まれるとのことですが、主治医の先生からはどのような説明を受けられましたか？」

山田 「箸を落としたのを家内が見ていて病院に連れていかれたんですよ。検査では先生に小さい脳梗塞発作が起きていると言われましたよ。ほっとくと大きな発作が起きると言われてもうびっくりですよ。本当は入院して検査をするように言われたんですけど、怖いと言ったら、まずは薬で様子を見ることになったのです。しかし脳梗塞と言われるとは・・・」

佐藤 「それはびっくりされていらっしゃると思います。でも早い発見で良かったです。これからもう発作が起きないように、予防のお薬がでています。」

**Point**

**くすりの説明を分かりやすくする**

佐藤 「このプレタールODというお薬ですが、1回に1錠、朝と夕食後にお飲みください。お水がなくても飲めるお薬です。」

山田 「これを飲めば脳梗塞が治るのですか？私は薬が嫌いなんですよね。きつい副作用があるんじゃないですか？」

佐藤 「副作用がご心配なのですね。」

佐藤 「初めてお飲みになるお薬ですから、こちらの『くすりのしおり\*』できちんと説明させていただきたいのですが。5分程お時間大丈夫でしょうか？」

山田 「5分くらいなら。」

佐藤 「ありがとうございます。お薬の作用ですが、血栓を作りにくくして、血管も広げることで血液のめぐりを良くします。」

佐藤 「この図のように血液が固まりにくくなるという作用、そして血液の循環を良くする、という作用があって脳梗塞の再発を防ぎます。」

山田 「ほう・・・」

佐藤 「ただし、飲み始めの頃は、血液のめぐりが良くなったために頭痛がすることがあります。慣れてくることが多いですが、つらい時は我慢なさらずご相談してくださいね。」

山田 「なるほど、頭痛ねえ・・・」



**くすりのしおりやパンフレットを使って  
正しく理解してもらえよう説明する**

**\*くすりのしおり見本 (P16 参照)**

ナレーション

佐藤さんは、分かりやすい表現で書かれた『くすりのしおり』やパンフレットを見せながら、山田さんに薬について正しく理解してもらえよう、工夫して説明しています。

山田さんは、脳梗塞と診断を受けて不安な気持ちでしたが、薬の効きめと起こりうる副作用について知ることができ、少し安心したようです。

## 生活習慣を見直す

ナレーション

日々の生活で、少し気をつければ脳梗塞になりやすい状態を改善できることもあります。

薬剤師の佐藤さんは薬のプロ、でも、山田さんの身体のことを一番よく知っているのは山田さん自身です。いわば患者のプロと言えるかもしれません。佐藤さんは、山田さんにそのプロ意識を高めてもらいたいと思っています。

**Point**

**薬剤師は、薬のプロ**

**あなたの健康状態を、一番よく知っているのはあなた自身**

**Point**

**治療への意識を高めるようにする**

佐藤 「では、先ほど書いていただいたアンケート内容を確認しますね。」

**Point**

**患者の併用薬やアレルギー歴などを確認**

佐藤 「山田さん、他に先生からどんなお話がありましたか？」

山田 「血圧のことですね。これ以上高くしないように気をつけなさい、と言われてましたよ。」

佐藤 「そうですか。ご自宅に血圧計はありますか？」

山田 「ええ、ありますけど面倒でねえ。でも、やらなくちゃいけないかな。」

佐藤 「ぜひ、お願いします。できれば毎日同じ時間にはかる習慣をつけてください。他にもお食事の塩分を控え、運動することで大きく違ってきますよ。喫煙もよくないので減らせると良いですね。この中ですぐ出来そうな事はありますか？」

山田 「そうだね。ウォーキングかな。実は妻と富士山へ登る計画があるのでね。それで、体力をつけたいと思っているんですよ。」

佐藤 「わあ、奥様と富士山へ登られるなんて、とっても楽しみです！お怪我をしないように、少しずつ運動量を増やしていきましょうね。」

山田 「そうだね。」

佐藤 「お食事はどうでしょう？塩分の管理など奥様にしていただけそうですか？」

山田 「ああ、それは家内に言うておくよ。」

佐藤 「お願いします。」

ナレーション

富士山へ登るという目標を話すことで、山田さんは脳梗塞の再発の抑制に対して、前向きな意欲がでてきたようです。佐藤さんは、山田さんと目標を共有し、コミュニケーションを深めることができました。

**Point**

**目標を共有し、コミュニケーションを深める**

**説明された内容を確認する**

ナレーション

佐藤さんは、薬を飲む際の注意点を十分に理解してもらえるように説明します。また、過敏症や薬剤アレルギーの初期症状があればすぐに受診するよう、アドバイスします。

**Point**

**薬を飲む際の注意点を  
十分に理解してもらうように説明する**

**Point**

**過敏症や、薬剤アレルギーの初期症状があれば  
すぐに受診するよう、アドバイスする**

佐藤 「それでは、お薬のご注意に話を戻しますが、このお薬を飲んでいる間は、血が止まりにくくなりますので、歯医者さんや怪我をして他の病院におかかりになる時には、必ずこのお薬を飲んでいることを伝えてください。」

山田 「わかりました。」

ナレーション

なんとなく話を聞いていたら、記憶に残っていなかった、という経験はありませんか？  
佐藤さんは、説明を分かってもらえたかを確認したいと思っています。

**Point**

患者さんが「説明をわかってもらえたか」を、確認する

佐藤 「山田さん、たくさんお話したので整理したいと思います。すみませんが、このお薬の飲み方をどのように理解されましたか？」

山田 「朝と夕食後に1錠ずつ、水なしで飲めるんですね。」

佐藤 「そうです！あと私の説明で他に覚えていることはありますか？」

山田 「頭痛がするかもしれないんだよね。」

佐藤 「ええ。毎日飲んでいただきたいのですが、つらかったらおっしゃって下さいね。」

山田 「分かりました。」

佐藤 「山田さんはあと血圧のコントロールも考えていらっしゃるのですよね。お食事や運動は何をすることにされたか覚えていらっしゃいますか？」

山田 「運動はウォーキング、食事は塩分を控えるようにすることですよね。」

佐藤 「はい。できそうですか？」

山田 「うん。まあ、やってみるよ。」

佐藤 「素晴らしいです！ご自宅に血圧計があるのですよね？」

山田 「ええ。富士山に元気に登りたいですからね。色々やらなくてはいけない事がありますが、頑張りますよ。」

佐藤 「そうですよ。頑張ってください！何か私の説明で分かりにくいところや、気になっていらっしゃることはありますか？」

山田 「いえ、よく分かりました。」

佐藤 「ご自分でお身体をコントロールするためにも、ぜひ飲んでいきましょう。」



ナレーション

山田さんは、佐藤さんから分かりやすい言葉で、薬の作用と使い方、そして生活習慣にあった説明をしてもらいました。また、『くすりのしおり』もあるので、自宅で内容の確認ができました。

『くすりのしおり\*』には薬の作用と効果、用法・用量、生活上の注意、副作用などが分かりやすく書かれています。

最近では、薬の説明だけでなく、患者さんの生活習慣の改善や、健康チェックを実施する薬局もあります。お近くにそんな薬局があったら、ぜひかかりつけにしてください。

**\*くすりのしおり見本 (P16 参照)**

## [Part2] 治療を続けるために ～一年後～

ナレーション

脳梗塞と診断された山田さん。富士登山という目標のため規則正しく薬を飲んでいましたが、副作用と思われる鼻血を経験してから、治療に対する不安が生じ、意欲がなくなりかけていました。

残りの薬が少なくなった山田さんは、8週間ぶりにひまわり薬局にやってきました。

お薬手帳を見ても、他の薬局で薬をもらった様子もありません。薬剤師の佐藤さんは山田さんに何があったのか気になります。

佐藤 「山田さん、今回8週間ぶりですが、何かお変わりありませんでしたか？」

山田 「ああ、いや、特にかわったことはないです。」

佐藤 「それは安心しました。」

山田 「いえ・・・」

佐藤 「お薬が足りなくてお困りになっているのではないかと心配していました。」

山田 「いや、手持ちも少しあったので・・・」

## 不安や悩みは抱え込まないで相談する

ナレーション

佐藤さんは、山田さんが薬を規則正しく飲まなくなった理由が何かあると考えています。

佐藤 「そうですね。お忙しいと、つい飲み忘れてしまうことも多くなりますか？」

山田 「まあ・・・」

佐藤 「何か、このお薬でご心配なことがございますか？」

山田 「いや、特には・・・」

佐藤 「気になることがあればどんな事でもどうぞ。」

山田 「まあ元々、箸を落としたくらいの軽さなのだし、1年も飲んだからもうそろそろ飲まなくてもいいのではと思っているのですよ。」

山田 「・・・出血しやすいというのもねえ。」

佐藤 「そうですね。軽い症状だったから、そろそろ飲まなくてもいいのでは、と思われるのですね。」

佐藤 「・・・出血のことで何か気になることがありましたか？」

山田 「実は、鼻をかんだら鼻血が出てしまって、たいした量ではなかったのですが、鼻血なんて何十年もなかったことですし、それでこの薬のせいではと思ったのです。」

佐藤 「そうでしたか。この薬のせいかもしれないと思うと不安になりますよね。」

山田 「そうなんですよ。同じような薬を飲んでいる知り合いが、歯を抜いたらしばらく血が止まらなかったんで、それ以来薬を飲むのをやめてしまったと言うのです。脳出血でもしたら大変だろって。そう言われるとなんだか急に怖くなってしまって。」

佐藤 「なるほど。それで山田さんもお薬を飲むのをやめてしまったのですね。」

山田 「ええ、でも、やっぱり心配になってしまって、それで念のため、検査を受けてきました。」

佐藤 「そうだったのですね。主治医の先生からは、薬に関して何か説明がありましたか？」

山田 「もう少し飲み続けましょう、と言われただけで、特には・・・」

**Point**

**くすりのしおりで説明をする**

**\* くすりのしおり見本 (P16 参照)**

佐藤 「実は、鼻血などの少しの出血に驚いて、飲むことをやめてしまい、脳梗塞の再発を抑えられなくなってしまうことが一番怖いのです。そういう方が意外と多いのですよ。」

山田 「そうですか・・・」

佐藤 「日頃から鼻をやさしくかむようにして、尿や便に血が混じっていないかにも注意してください。歯を抜くなどの予定があるときには、どうされますか？」

山田 「ああ、歯医者にこの薬を飲んでいることを話します。」

佐藤 「はい、そうですね。そうすれば、薬をお休みする期間を教えていただければと思います。」

佐藤 「少しぐらいの鼻血でしたら、服用されても問題はありませんので、どうぞ安心ください。」

山田 「そうしますよ。」



くすりのしおりを使って、より丁寧な説明をする

\* くすりのしおり見本 (P16 参照)

ナレーション

『くすりのしおり』を使った説明で、山田さんの不安を少し解消することができました。

### 積極的に治療に参加する

ナレーション

不安が解消されたら、治療の再開です。薬剤師は患者さんが規則正しく薬を飲んだ時の効果を理解できるように努めます。そして、本当に理解してもらえたか、患者さんに話してもらいます。



患者さんに規則正しく薬を飲んだ時の効果を理解できるように説明する



患者さんに話してもらい理解してもらえたか、確認する

佐藤 「山田さん、この薬の作用、覚えていただいていますか？」

山田 「えーっと、血の塊をできにくくするのでしょうか。」

佐藤 「そうです！その通りです。あとひとつは？」

山田 「もうひとつは・・・えーっと。」

山田 「あっ、そうそう。血の流れを良くする。」

佐藤 「そうですね。血の塊をできにくくして、血管を拡げて血の流れを良くします。それで脳梗塞の再発を防ぎます。」

山田 「ええ。」

佐藤 「何か症状が出た時には遅いと思ってくださいね。」

山田 「はい。」

佐藤 「山田さんにはとても合ったお薬だと思います。」

山田 「そうだね。」

ナレーション

山田さんは薬の効きめを再確認できたようです。佐藤さんは、山田さんに薬を飲む意欲を持ち続けてもらいたいと思っています。残りの薬がどの程度あるかを確認して、処方どおりの薬を出しました。

### 再度、自分の生活習慣を見直す

ナレーション

佐藤さんは、山田さんに趣味の登山を楽しんでもらえるよう、最善の治療や生活習慣の改善もサポートしたいと考えています。山田さんはアドバイスを受けた血圧の測定や運動を続けているのでしょうか？

佐藤 「ところで、血圧は今も測ってらっしゃいますか？」

山田 「ええ。だいたいね。」

佐藤 「今日、病院で測った血圧はどうでしたか？」

山田 「上が 130 で、下が 85 だったかな。少し高めですかね。」

佐藤 「そうですね。ウォーキングは続けてらっしゃいますか？」

山田 「うーん、本当に少し忙しかったものだからね。」

佐藤 「ああ、そうですか。ぜひ続けてくださいね。・・・そういえば、奥様と富士山へ登られたのですか?!」

山田 「はい、登って来ましたよ！いやあ、何とも言えない清々しさなんです。いいですよ。今度木曾の駒ヶ岳にでも行こうかと話しているんですよ。」

佐藤 「それは楽しみですね！」

#### ナレーション

山田さんは脳梗塞の治療を始める前から、毎日たばこを吸っていました。なかなか止められないようです。

佐藤 「山田さん、山登りの最中に息切れしたりされませんか？」

山田 「いやあ、何でもお見通しなんだなあ。息切れしなければもっと楽しいのと思っていますよ。」

佐藤 「山田さんは、おたばこをやめようと思われたことはありますか？息切れも軽減されるし、血圧を下げるのにも効果があると思いますよ。」

山田 「ええ、何度もやめたいと思っているんですけどねえ。」

佐藤 「無理せず出来る禁煙の方法があるんですよ。」

山田 「本当ですか？」

佐藤 「はい。お時間ありますか？」

山田 「ちょっと、今日は・・・今度、ゆっくり相談させてください。」

佐藤 「ええ。では、またお時間のある時にお声をかけてください。それでは、お大事になさってください。」

山田 「ありがとう。」

#### ナレーション

山田さんは再び治療に前向きになってくれました。薬剤師は医師と同様、患者さんによりよい医療を提供するよう努めています。『くすりのしおり\*』を使った薬の説明はその重要な役割を担っています。

最善の治療や生活を選択できるよう、患者さんと一緒に考えていく。これが、患者さんと医療者との本来あるべき関係ではないでしょうか。

**\* くすりのしおり見本 (P16 参照)**





くすりの適正使用協議会 くすりのしおりコンコーダンス委員会 委員

- ☆三橋 能弘 (第一三共株式会社)
- ★程島 直子 (Meiji Seika ファルマ株式会社)
- 橋本 律子 (大塚製薬株式会社)
- 栗原 理 (協和発酵キリン株式会社)
- 岸野 淳二 (塩野義製薬株式会社)
- 中畑 智予 (田辺三菱製薬株式会社)
- 工藤 香代子 (中外製薬株式会社)

☆委員長 ★副委員長

【監修】

- 後藤 恵子 (東京理科大学 薬学部 健康心理学研究室 教授)
- 井手口 直子 (帝京平成大学 薬学部 准教授)
- 宮川 政昭 (横浜内科学会 会長、宮川内科・小児科医院 院長)
- 杉森 裕樹 (大東文化大学大学院 スポーツ・健康科学研究科健康情報科学 教授)

【事務局】

- 野村 香織、米澤 晴子 (くすりの適正使用協議会)

平成 24 年 12 月現在

(敬称略 順不同)



## くすりの適正使用協議会

**RAD-AR Council Japan**

理事長 黒川 達夫

〒103-0012 東京都中央区日本橋堀留町 1-4-2 日本橋 N ビル 8F

TEL : 03-3663-8891 FAX : 03-3663-8895

ホームページ : <http://www.rad-ar.or.jp/>

くすりのしおり : <http://www.rad-ar.or.jp/siori/index.html>

国内で RAD-AR 活動を推進するため、研究開発志向型製薬企業によって 1989 年 5 月に結成された非営利団体です。医薬品のリスクとベネフィットを科学的、客観的に評価、検証する手法である薬剤疫学の紹介と啓発、医薬品の適正使用に資する医療担当者と患者さんとのコミュニケーションの促進、といった活動を中心に行っています。

### **RAD-AR 活動(Risk/benefit Assessment of Drugs-Analysis and Response)**

医薬品に本来備わっているリスクとベネフィットを科学的、客観的に評価・検証し、その結果を社会に提示することで医薬品の適正使用を促し、患者さんのメリットに寄与すること

#### くすりの適正使用協議会の活動を支える会員

##### 【会員企業】

- |               |                       |
|---------------|-----------------------|
| ・アステラス製薬株式会社  | ・大正製薬株式会社             |
| ・アストラゼネカ株式会社  | ・大日本住友製薬株式会社          |
| ・エーザイ株式会社     | ・武田薬品工業株式会社           |
| ・MSD 株式会社     | ・田辺三菱製薬株式会社           |
| ・大塚製薬株式会社     | ・中外製薬株式会社             |
| ・キッセイ薬品工業株式会社 | ・日本新薬株式会社             |
| ・協和発酵キリン株式会社  | ・ノバルティス ファーマ株式会社      |
| ・興和株式会社       | ・ノボ ノルディスク ファーマ株式会社   |
| ・塩野義製薬株式会社    | ・Meiji Seika ファルマ株式会社 |
| ・第一三共株式会社     |                       |

##### 【個人会員】

- |                     |               |
|---------------------|---------------|
| ・ 大野 善三 (医学ジャーナリスト) | ・ 三輪 亮寿 (弁護士) |
|---------------------|---------------|

平成 24 年 12 月現在